

建築鋼構造の理論と設計 正誤表

頁	箇所	誤	正
i	「まえがき」6行目	部材・接合部の設計	部材・接合部の挙動と設計
i	「まえがき」下から7行目	http://www.kyoto-up.gr.jp	http://www.kyoto-up.or.jp
目次 iv	第2部	2.1.2 鋼材の応降伏条件	2.1.2 鋼材の降伏条件
1-12	上から10行目	表3.1	表3.2
1-13	(3.4)式の上2行目	縦弾性係数	縦弾性係数
1-14	表3.4の板厚区分の欄	$40 \leq t \leq 100$	$40 < t \leq 100$
1-16	上から5行目	図3.4	図3.4
1-20	下から2行目	図4.13	図5.4
1-22	上から11行目	図4.14	図5.5
1-22	下から13行目	まとめてを表4.1	まとめて表4.1
1-22	下から8行目	H形鋼は接組立H形鋼と	H形鋼は溶接組立H形鋼と
1-23	下から3行目	図2.4	図3.4
1-26	上から2行目	溶接継手をである	溶接継手である
1-28	図5.2	$I = \dots \text{mm}^2$	$I = \dots \text{mm}^4$
1-30	上から13行目	図2.1	図3.1
1-30	下から2行目	図5.1	図4.7
1-33	上から1行目	図5.11(a)	図5.11
1-34	上から4行目	次のこのときの	次にこのときの
1-34	上から17行目	$\delta_m = (0.003 +$	$\delta_m = (0.03 +$
1-36	上から13行目	図5.6(b)	図5.9(b)
1-38	下から5行目	固有円振動数	固有円振動数
1-41	上から1行目	(6.16)	(6.6)
1-45	下から5行目	図6.13	図6.14
1-46	下から8行目	図6.4	図6.10
1-47	上から1行目	最大値 E_k	最大値 E_s
1-47	上から4行目	(6.31) 式の E_k	(6.31) 式の E_s
1-47	上から8行目	各層の重量が	各層の質量が
1-47	上から8行目	(6.32), (6.33)	(6.2), (6.32)
1-47	(6.34), (6.35) 式中	C_0	${}_1C_0$
1-50	下から3行目	風力係数は	風力係数の和は
1-52	参考文献 6.5)	多治見宏	田治見宏
2-2	上から7行目	Summur	Summer
2-4	(2.1) 式	$\Phi = \sigma - \sigma_y$	$\Phi = \sigma - \sigma_y = 0$
2-4	下から5~7行目	図2.4	図2.5
2-4	下から2行目	図2.5	図2.4
2-14	(2.38)式の下1行目	$y_0 \leq D_f$	$y_0 \leq d_f$
2-15	上から14行目	箱形断面のX軸まわり場合には,	箱形断面がX軸まわりの曲げを受ける場合には,
2-17	2.4.1項の2行目	M_{pn}	M_{pnX}
2-18	(2.50b) 式	$M_{pnY} = \frac{1}{2}(\alpha - \beta)A d_f \sigma_y$	$M_{pnY} = \frac{1}{4}(\alpha - \beta)A d_f \sigma_y$
2-19	下から6行目	$N = \frac{1}{2}A \sigma_y + 2N_f$	$N = \frac{3}{4}A \sigma_y + N_f$
2-19	下から4行目	$M_{pnX} = (\frac{A}{4} \sigma_y - N_f) d_f$	$M_{pnX} = (\frac{A}{4} \sigma_y - N_f) \frac{d_f}{2}$
2-21	(2.58)式	$m_{pnX} \leq \frac{1}{1 + r_w/4}$	$m_{pnX} \leq \frac{1}{2 + r_w/2}$
2-21	(2.59)式	$n = 1 - \frac{1 - \alpha - \beta}{2 + r_w} (2 + \frac{r_w}{\alpha - \beta})$	$n = \frac{1 - \alpha - \beta}{2 + r_w} (2 + \frac{r_w}{\alpha - \beta})$
2-21	(2.60)式	$(4 + r_w) m_{pnY} \dots$	$(4 + r_w) m_{pnX} \dots$
2-29	上から6行目	図2.4(a)	図2.2(a)
2-29	下から5行目	降伏モーメント M_y いい	降伏モーメント M_y といい

頁	箇所	誤	正
2-30	上から3行目	Z_p は塑性断面形数,	「削除」
2-30	下から4行目	(2.17)式	(2.19)式
2-33	上から8行目	(3.14)式	(3.16)式
2-35	下から1行目	ヤング係数の	「削除」
2-42	下から1行目	形成されるものある.	形成されるものである.
2-43	下から4行目	仮想仕事式(3.27)	仮想仕事式(3.36)
2-54	上から2行目	いずれかの	いずれかの
2-61	上から7行目	勾配が点における	勾配が点cにおける
2-61	上から9行目	Φ_A, Φ_B と上の接線	Φ_A, Φ_B 上の接線
2-61	下から7行目	求めことは	求めることは
2-63	参考文献4.2)	Desugn	Design
2-65	下から6行目	$\lambda = 2/3$	$\lambda = 2.0$
2-72	上から4行目	得に断らない限り	特に断らない限り
2-85	(5.36)式	$u_i = 0 ; (i=1, \dots, q)$	$u_i = 0 ; (i=1, \dots, q-1)$
2-86	上から4行目	層モーメントは ${}_s M_i$	層モーメント ${}_s M_i$ は
2-93	上から9行目	AE	AF
2-111	(5.86)式中	M_{Yi}	M_{Yj}
2-113	上から9行目	制震部材だけ	制震部材だけ
2-113	下から4行目	形成さる.	形成される.
2-120	(5.114), (5.115) 式中	Y_{Yj}	Y_{Xj}
2-122	(5.132)式	$X_S = \frac{\sum_{j=1}^J M_{Xj}^{OVT} \cdot X_{Xj}}{\sum_{j=1}^J M_{Xj}^{OVT}}, Y_S = \frac{\sum_{k=1}^K M_{Yk}^{OVT} \cdot Y_{Yk}}{\sum_{k=1}^K M_{Yk}^{OVT}}$	$X_S = \frac{\sum_{k=1}^K M_{Yk}^{OVT} \cdot Y_{Yk}}{\sum_{k=1}^K M_{Yk}^{OVT}}, Y_S = \frac{\sum_{j=1}^J M_{Xj}^{OVT} \cdot X_{Xj}}{\sum_{j=1}^J M_{Xj}^{OVT}}$
2-131	参考文献5.8)	Frame	Frames
2-131	参考文献5.9)	水平力を受ける	水平力をうける
2-135	上から15行目	塑性断面形数	塑性断面係数
2-137	上から8行目	(6.5)式の釣合条件	(6.5)式の釣合条件
2-139	(6.11)式中	$(B_1 + B_2)$	$(B_{i,1} + B_{i,2})$
2-139	図6.18中	$B_1 + B_2$	$B_{i,1} + B_{i,2}$
2-140	上から10行目	塑性断面形数	塑性断面係数
2-141	上から2行目	塑性断面形数	塑性断面係数
2-141	表6.3の床番号	6 · · · · 2	5 · · · · 1
2-143	上から2行目	塑性断面形数	塑性断面係数
2-144	表6.8 $i=4$ の ${}_G M_i$	1730	1880
2-144	表6.8 $i=4$ の $B_{i,1}$	346	376
2-145	表6.9の床番号	6 · · · · 2	5 · · · · 1
2-146	表6.11 4層の ${}_{req} M_{pnX}$	545	494
2-146	表6.11 4層の D	336	321
2-146	表6.12 5層の ${}_{req} M_{pnX}$	675	600
2-146	表6.12 4層の ${}_{req} M_{pnX}$	818	701
2-146	表6.12 5層の D	303	286
2-146	表6.12 4層の D	334	311
2-150	(7.6)式中 (2カ所)	σ_y	σ_u
2-152	(7.18)式	$\tan \alpha = \frac{\sigma_n - \sigma_i}{\tau_{nt}}$	$\tan \alpha = -\frac{\sigma_n - \sigma_i}{\tau_{nt}}$
2-154	(7.28)式の右辺最後の文字	w	b
2-174	(7.106)式中	$(1 + \tan^2 \theta)$	$(1 + \tan^2 \varphi)$
2-175	(7.116)式中	$\lambda_2 = \frac{1}{2} \pi + \varphi i$	$\lambda_2 = \frac{1}{2} \pi + \varphi$
2-179	下から3行目	(7.162)式	(7.122)式
3-6	上から3行目	図2.4(b)	図2.4(c)
3-7	下から2行目	$E I \phi = -N y$	$E I \phi = -N u$
3-13	(2.59)式の{ }内第2項	$\frac{K_r l}{2 E I} z^2$	$\frac{K_r}{2 E I} z^2$

頁	箇所	誤	正
3-13	(2.60)式の{ }内第2項	同上	同上
3-17	下から10行目	塑性座屈	非弾性座屈
3-20	図2.27の縦軸の数値	下側の1.5	0.5
3-24	(2.105)式の下1行目	shanley	Shanley
3-37	(4.16)式第2項の符号	$+ \{s(1-c^2) - \pi^2 k\} R_0$	$- \{s(1-c^2) - \pi^2 k\} R_0$
3-45	下から8行目	接合部の長さ l_J のは	接合部の長さ l_J は
3-62	上から3行目	せん断弾性係数	せん断弾性係数
3-62	(6.5)の第3式	$M_{xy} = - \int_{-t/2}^{t/2} \tau_{xy} z dz = M_{yx}$	$M_{xy} = \int_{-t/2}^{t/2} \tau_{xy} z dz = M_{yx}$
3-64	上から6行目の式	$\dots - N_{yx} dy = 0$	$-N_{yx} dx = 0$
3-65	(6.20)式の上2行目	この式に(6.8)式と(6.9)式を	この式に(6.13)式~(6.15)式を
3-65	(6.20)の式左辺第3項	$N_{xy} \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y}$	$2N_{xy} \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y}$
4-6	上から2行目	図1.7	図1.8
4-6	上から3行目	図1.6	図1.7
4-9	(1.5)式の下	接合部係数	接合部係数
4-12	上から4行目	図2.1... (2.2b)式	図2.2... (2.1b)式
4-19	上から13行目	$Z_p = (1+r_w/4)A_f$	$Z_p = (1+r_w/4)A_f d_f$
4-23	図2.18の縦軸の目盛	-500の位置	一番下の目盛り
4-27	下から1行目以降	柱の断面と曲げ面内の座屈長さ が仮定されると N_E が	柱の断面2次モーメント I と部材長 l を用いて(2.33)式から N_E が
4-32	(2.54)式	$M_e =$	$M_1^{cr} =$
4-47	参考文献2.9)	{その1}	[その1]
4-65	上から10行目	下記をとする.	下記の値とする.
4-65	上から13行目右側の式	$wq_y =$	$wq_u =$
4-79	表3.7の右側の記号	(3.41)式	(3.26)式
4-80	上から6行目の式番号	(2.31)	(3.31)
4-80	(3.33)式	右辺の bq_u	p_u
4-80	図3.64(b)	$bq_s = 74.5 \text{ kN}$	$bq_s = 74.3 \text{ kN}$
4-80	図3.64(c)	はしめけ破断	ボルトの最大耐力(1面せん断)
4-80	図3.64(c)	$p_{u1} = 148 \text{ kN}$	$bq_u = 188 \text{ kN}$
4-81	上から2行目	$bq_s = 149/2 = 74.5 \text{ kN}$	$bq_s = 74.3 \text{ kN}$
4-81	上から8行目	$p_{u1} = \dots = 148 \text{ kN}$	$p_{u1} = \dots = 252 \text{ kN}$
4-81	上から9行目	bq_u より小さい.	bq_u より大きい.
4-81	上から10行目	$M_u = 39.4 \text{ kN}\cdot\text{m}$	$M_u = 50.0 \text{ kN}\cdot\text{m}$
4-81	下から3行目	(3.35d)式	(3.35)式
4-82	下から5行目	$q_M = p_{u1} = 148 \text{ kN}$	$q_M = bq_u = 188 \text{ kN}$
4-82	下から5行目	$M_u = 35.0 \text{ kN}\cdot\text{m}$	$M_u = 45.1 \text{ kN}\cdot\text{m}$
4-85	下から5行目	図3.674	図3.74
4-85	図3.74中の記号	n	$n/2$
4-86	上から1行目	$M_p = \frac{w t^2}{4} \sigma_y$	$M_p = \frac{w t_f^2}{4} \sigma_y$
4-86	(3.50)式の下	$M_u = \frac{w t^2}{4} \sigma_u$	$M_u = \frac{w t_f^2}{4} \sigma_u$
4-102	参考文献3.20)	柱梁接合辺の塑性変形”\力	柱梁接合部の塑性変形能力
4-102	参考文献3.26)	ST”	ST2
4-102	参考文献3.27)	Voll	Vol
5-14	下から3行目	塑性弾性変形増分	塑性変形増分
5-17	下から2行目	(3.28)式で作成されると	(3.28)式で作成されると
5-18	図3.9の番号	図3.9 負荷時の...	図3.10 負荷時の...
5-21	上から11行目	図1.2	図3.11
5-23	参考文献3.8)	別冊C	別冊B